

Q 研究分野もしくは、担当科目の魅力をお教えてください

担当している科目は、簿記論と管理会計論ですが、研究分野は管理会計論ということになります。簿記の魅力は、企業の取引を記録していると、それが集計されたとき、まとまった内容の情報を提供する会計報告書が生み出されるということにあると思います。その仕組みは、非常によく出来ているので、初めて簿記の勉強をする人が、その仕組みを理解したときには、感動する人もいるかもしれません。また企業は、この簿記の手続きによって会計記録・報告を行っているので、企業に就職したときに、この知識が役に立つ可能性があるのも、簿記の魅力の一つかもしれません。管理会計は、意思決定や業績評価の

ための会計です。管理会計の魅力は、簿記のように一口で言いにくいところがあるのですが、例えば、管理会計では、意思決定に関連する数値だけを取り上げて、関連しない数値は無視していいという考え方を取ります。当たり前といえば当たりの考え方なのですが、目から鱗が落ちるような感覚を持つ人もあるのではないのでしょうか。そういった感覚を与えられる可能性があることが、管理会計の魅力だと思います。

■簿記論C

■管理会計論II

■原価計算特論

中村 彰良
(なかむら あきよし)



1996年に高崎経済大学に来てから十数年がたちました。その前まで4年ほど短大の教員をしていました。年齢のわりに子供が小さいので、体力的に子育てが大変です。

Q その分野もしくは、科目を志したきっかけをお教えてください。

正確に言えば、魔がさしたと言うことかもしれません。また、志したといわれると、背中が痒くなるので、なぜ管理会計をやっているかということを見ると、大学生のときに入ったゼミが管理会計のゼミだったからということですね。なぜ管理会計のゼミに入ったかということ、簿記の魅力などを知って会計に興味があったということが一つあると思います。会計には、管理会計の分野と財務会計の分野がありますが、財務会計の分野からは、規制の臭いが漂ってきました。その点、管理会計の分野には、自由な雰囲気がありました。この自由な雰囲気に惹かれたということにしておきましょう。